

第1部

金沢大学附属幼稚園
第60回教育研究会に向けて

第1章 平成25年度の研究について

林 博之 草場 勇介

1. 研究テーマ

『幼稚園における遊びを探る』

～遊び込む中の学び～

2. 研究テーマについて

幼児は、遊びながら学んでいると言われているが、どのような学びがあるのだろうか。本園では幼児の遊びの中の学びを捉えるために、昨年度研究テーマ『幼稚園における遊びを探る』とし、遊び込む幼児の姿を中心に、教師一人一人が「遊び」を捉え幼児の学びを支えるための環境の構成や教師の援助について探ってきた。今年度も『幼稚園における遊びを探る』をテーマとし、学びを支える環境の構成や教師の援助の下、遊び込む幼児らにどのような学びがあるのか「遊び込む中の学び」をサブテーマに探っていくこととした。

幼児期の学びについては、丸野（1995）は遊びがもたらす体験世界と遊びによって育つことの見込める力として、「具体的なモノの操作から、ものの概念を形成したり道具の発見、創造、製作したりすること」「五感を通して感性や感動を育むこと」「現実と創造の世界を出たり入ったりして、想像力を育むこと」「問題状況に出会い挑戦する中での成功、失敗体験から意欲や想像力、問題解決能力といった認知面や、気力、忍耐力といった精神面を育むこと」「喜怒哀楽などの感情を通して、思いやりやいたわりの精神を育むこと」「他者との約束事やルール、規範を通して、社会性や自主性を育むこと」の6つを掲げ、遊びが幼児の多方面での学びを促しているとし示唆している。¹⁾ また「遊び」と「学び」の関係については佐伯（2004）が、「遊び」と「学び」は本来、渾然一体のものであるとし、遊ぶことも学ぶこともほとんど区別がなく、子どもは遊びの中で学び、学びは遊び心にもなって生じるとしている。²⁾ 本園でも遊びの中の学びについて『幼児期の学びを探る』として、遊びを通して幼児が何を学んでいるのかを「身体的側面」「知的側面」「心的側面」「社会的側面」から分類し、学年による学びの特徴を明らかにしてきた。³⁾

しかし、いずれにおいてもその「遊び」は、幼稚園教育の中で一般的に言う「遊ぶ」姿を指し、その遊びの状態が「遊び出す」「遊ぶ」「遊び込む」「遊びきる」のどの状態であるかはっきりとしていない。遊びの状態については、文部科学省（2012）が幼児期の遊びは学びそのものとしているが、幼児が遊び込む環境を構築し、幼児が主体的な活動をする中で、遊びの中で幼児は自分の課題を発見・追求するようになり、子どものもつ課題意識は高まっていくとし、幼児が主体的に遊び込む状態の中で学びが生まれるとしている。⁴⁾ また、山名（2001）は、子どもが自ら主体的にかかわっている遊びの中で、子どもは様々なことを学んでいると述べ⁵⁾、無藤（2012）は遊びへの熱中が工夫を誘い、その工夫がおもしろくできそうな目的を構想することにつながる。そこ

に、遊びから学びが生まれる道筋ができると述べている。⁶⁾ このように、幼児が遊びの中で学ぶ際の「遊び」の状態は、ただ「遊ぶ」という姿ではなく、幼児が主体的に遊び込む姿と示されている。しかし、遊び込む中で幼児にどのような学びがあるのかは、まだ実証的な研究は行われていない。

本園では昨年度の研究で、幼児が遊び込む姿とその際の環境の構成、教師の援助について考察してきた。しかしながら遊び込んでいる際の幼児の遊ぶ姿については、秋田（2009）の「遊び込む」の捉え⁷⁾を中心に事例検討、考察を行い、その際どのような学びが幼児らにあったのかについては言及してこなかった。

そこで、本研究では昨年度行った「遊び込む」の捉えから、幼児が遊び込む際にどのような学びがあるのかを明らかにする。

3. 研究の目的

- ・幼児が遊び込む中でどのような学びがあるのかを明らかにする。

4. 研究の方法

(1) 事例を記録する

- ・エピソードを綴る

「遊び込む」をキーワードに、幼児の遊び込む場面の事例を収集し、学びの様子を文章で記録する。

幼児らの遊びの姿や学びの様子を撮影、記録する。

(2) 事例研究をする

持ち寄った事例を読みとったり、VTRを視聴したりして協議し、幼児の遊び込む姿での学びの様子を捉え、考察、分類していく。

(3) 考察、分類の視点

- ・事例から見られた学びについて抽出し考察を行う。また、考察したものを分類して学びの姿の特徴についても考察する。
- ・分類については、「知的側面」「身体的側面」「心的側面」「社会的側面」でも行い、遊び込む中の4側面と学びの関係について考察する。